

大阪市立木津中学校 いじめ対応フロー図

教職員研修について = 年に2回校内研修を実施する。

(校内研修を1回以上開催する。教育委員会事務局指導部または教育センターが開催する研修の伝達研修を1回)

早期発見のために = ・日々の観察 ・いじめアンケートの実施(学期に1回以上 = 年に3回以上)
・教育相談の実施(年に2回以上) ・SCによるカウンセリング
・家庭や地域との連携 ・学校以外の相談窓口の周知

いじめの可能性に気付いたとき

全教職員 ・いじめと疑われる行為を発見した ・児童生徒から相談や訴えがあった ・外部から通報があった
・保護者から相談や訴えがあった ・いじめアンケートに記載があった 等

校長・教頭 ・いじめ対策のための組織(いじめ対策委員会) 会議の開催

【協議内容】初期対応の検討
・把握できている情報の共有

いじめ行為の制止
生命・身体等の安全確保
心のケア及び学習支援
事案の調査

いじめ対策のための組織(校長が組織の長) 会議

(校長・教頭・生徒指導主事・教務主任・
人権教育担当・生活指導部長・学年主任)

・被害児童生徒の安全確保、心のケア、学習支援の方
→初期段階よりSCによる心のケア

被害生徒

加害生徒

その他の生徒

・聞き取り方法(どの教職員が、どこで、どのように聞き取るか?聞き取る内容は?)

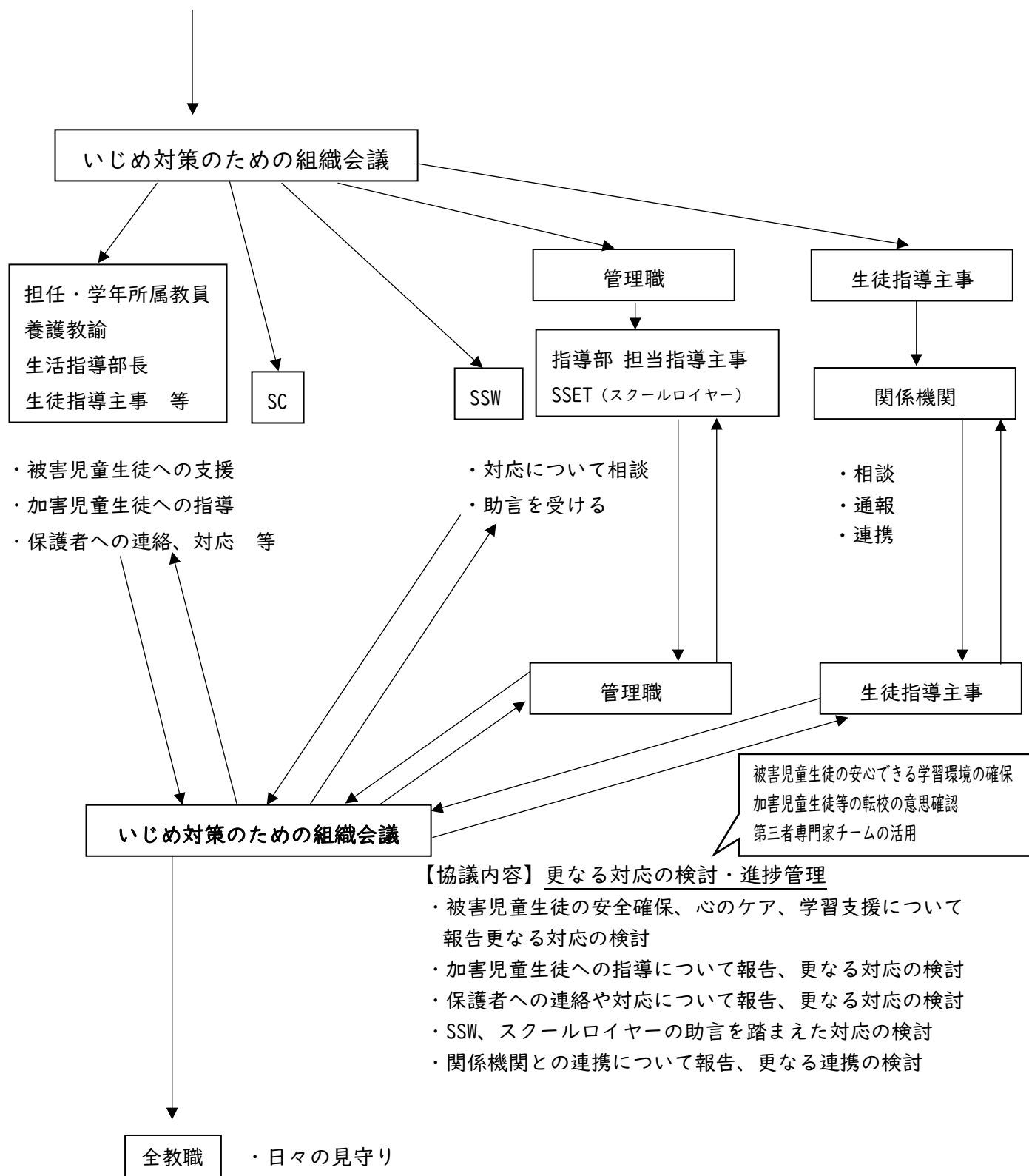
担任・学年所属教員・生活指導部長・生徒指導主事等 ・児童生徒からの聞き取り等

いじめ対策のための組織会議

【協議内容】指導方針・指導方法の決定

- ・聞き取った情報の共有
- ・更なる事実確認の必要性の有無
- ・被害児童生徒への具体的な支援の方法
(どの教職員が、どのような支援を、どのように行うか?)
- ・加害児童生徒への具体的な指導の方法
(どの教職員が、どのような指導を、どのように行うか?)
- ・保護者への連絡について
(どの教職員が、どのような方法で行うか?説明する内容は?)
- ・関係機関との連携について(連携の必要があるか?
連携の必要がある場合、どの関係機関と、どのように連携するか?)
- ・その他の児童生徒への働きかけの方法
(どの教職員が、どのように行うか?)

いじめに該当するかの判断
害児童生徒・保護者の要望・意見等の尊重
被害児童生徒・保護者への情報開示と説明
犯罪行為の警察への通報
警察の捜査等への協力
ルールに基づく加害児童生徒への対応措置
出席停止の措置及び個別指導教室における指導

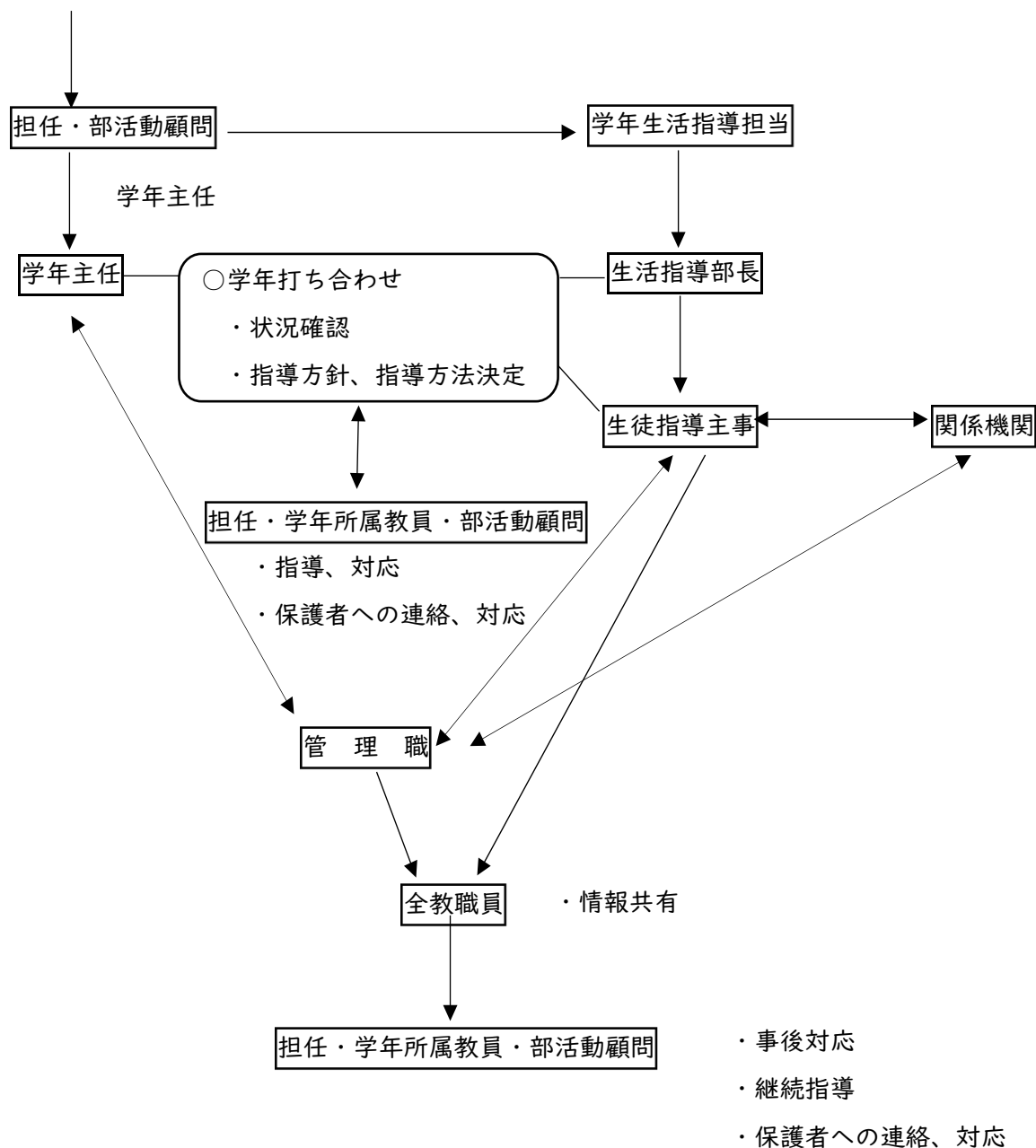


- ① 被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為が止んでいる状態が相当の期間（少なくとも3か月が目安）継続していること。
- ② 被害者が心身の苦痛を感じていない。（本人や保護者の面談等で心身の苦痛を感じていないかどうか確認する。）

以上の2つの要件が満たされれば、解消している状態となる。

いじめ以外の問題行動発生時の対応

全教職員 ・暴力行為（対教師、器物損壊） ・喫煙、飲酒 ・服装や頭髮違反 ・自転車通学
 ・授業離脱、妨害 ・不要物（携帯電話、お菓子等）の所持 等



※問題行動に対する指導や対応をしていく中で、いじめの可能性に気付いた際は、直ちに上記の「いじめの可能性に気付いたとき」の対応に切り替える。